

## スマートプラネット構想とは・・・

交通渋滞やエネルギーロス、食糧の過不足など、地球全体で見ると、まだまだ無駄が数多くあります。

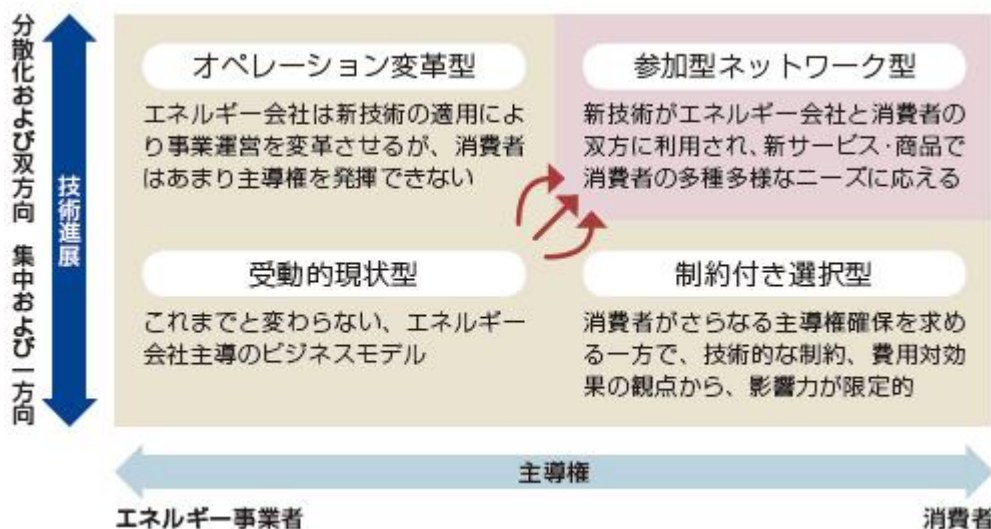
例えば、現在の電力は、少数の大規模発電所から供給されることが多く、電力の需要と供給のアンバランスから、インド、ドイツ、カナダの電力をまかなえるほどの無駄が発生しているそうです。

また交通渋滞なども交通量に合わせて道路を造るというやり方はもう、限界に来ていることは世界中、どこの国でも経験していることのようにです。

そこで、あらゆるものに情報機器を装備し、お互いに情報連携し、賢くすることによって、多くの問題を解決していこうというのが、「スマート・プラネット」の考え方なのです。

現在、地球上で起こっている様々な問題は「情報不足」によって生じるものがほとんどです。

内容は大きくわけて「賢い供給施設 (Smart Utility)」、「賢い交通」、「賢い食糧」、そして「賢いインフラ」

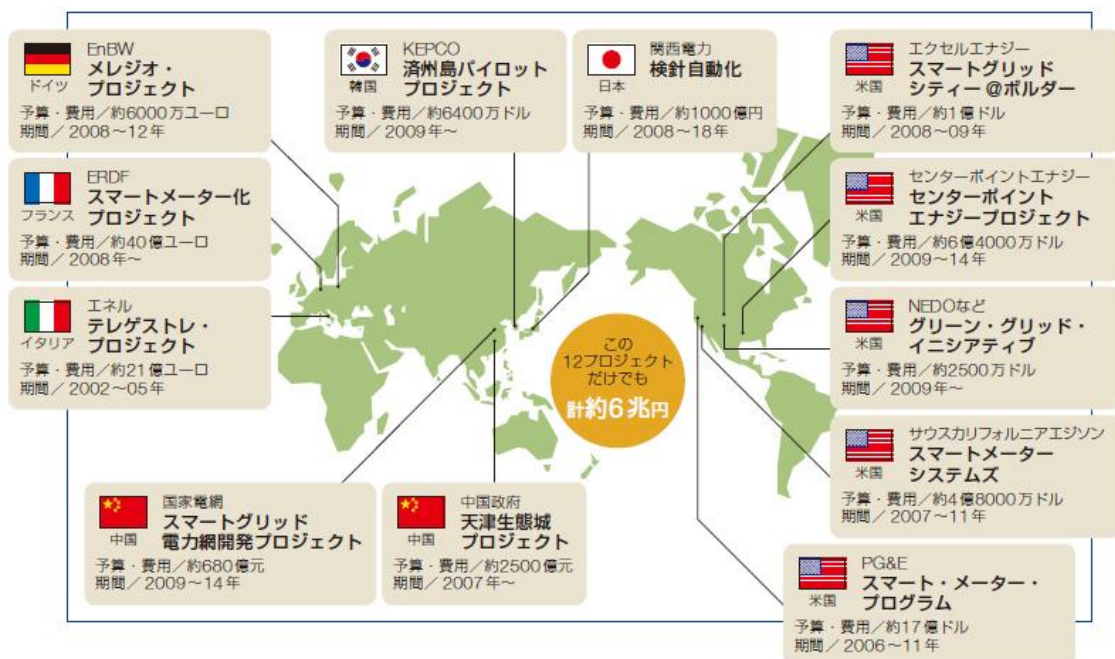


例をあげると、シンガポールではリアルタイムで渋滞状況を監視し信号機を制御することによってラッシュ時の渋滞を30%緩和したそうです。これは経済効果だけではなくガソリンの消費節減にもつながり、誰が得をしたかではなくシンガポール全体で得をしているのです。

真の地球にやさしいエコ活動とは1社だけの節電活動ではなく、全体でのどうエネルギー(資源)消費を抑制していくかを考えそれに協力するのが正しい方向ではないかと考えます。

また2020年の姿として、スマートメーターは、市場の多様化とさらなる普及期に入っており、消費者向けサービスが充実している時期になっているとしています。また、分散型発電（+蓄電）が電力供給の一つの柱になり、どこでもセンサーネットワークが利用できる環境になっているとしています。そして HEMS (Home Energy Management System) や BEMS (Building Energy Management System) が普及し Web との統合が進んでいるとしています。

下図は現在進行中のプロジェクトの一部です



スマートグリッドが社会インフラまで取り込み、「スマートシティ」に発展してきており、旧来のインフラを引きずる先進国の都市を尻目に、新興国は最先端のスマートな社会インフラを一挙に導入することを狙っています。

中国やインドでは、固定電話を飛び越して携帯電話が普及したことは記憶に新しく、スマートシティへの本格投資は先進国では少し先になりそうだが、新興国が望む“ジャンピングテクノロジー”としてすぐにも顕在化する可能性が出てきています。

米オバマ大統領の打ち出したグリーンニューディールによって一躍、脚光を浴びたスマートグリッド。ここにきてスマート（賢い）な対象は、グリッド（送電網）から、「スマートハウス」「スマートコミュニティ」、そして「スマートシティ」にまで広がってきています。

これは省エネとか個別の問題を解決しようという考え方ではなく、社会の構造（モデリング）の変化なのです。

## 機械がつぶやきだす世界・・・

いまの IBM のプロジェクトには問題があります。それはどうしてもトップダウン方式で町や世界を変えていこうというところです。

でも、いまインターネットの世界では全ての活動はアメーバ状に広がり誰のコントロールも許さない状況です（それが北アフリカの革命などにつながりました）

そこで我々の目指しているスマートプラネット構想もボトムアップから世界を変えていこうという取り組みです。

具体的にはセンサーや機器に情報発信ツールを取り付け（既存施設の機器でも可）それを **Twitter** で配信しようというものです。その情報が必要か価値があるものかどうかはそれはユーザーが決めるものでそれを使いやすくアプリケーションにするのもユーザー任せです（我々はその開発ツールを無償公開します）

まず **Twitter** などを使うかどうか技術的な説明をすると情報をその機器に対して取りに行かないので、トラフィックがかかることがない。そしていま流行っているインフラを使うことによって、開発コスト・敷居を低くできる。